

## 令和7年度 第2回文京区アカデミー推進協議会

日時	令和7年8月26日（火） 午後6時25分～午後7時40分
会場	文京シビックセンター 24階 区議会第1委員会室
委員	山田徹雄委員○、青木和浩委員○、垣内恵美子委員、阿部裕子委員、三浦武裕委員、高木いつ子委員、脇弥恵子委員、高澤芳郎委員、牧野恒良委員、関誠委員、佐伯晃委員、相澤みどり委員、中島多津子委員、高橋明弘委員、樋口晃委員 (○会長、○副会長)
欠席	荻野亮吾委員、小能大介委員、山田健一委員、小木貢委員
幹事	長塚隆史アカデミー推進部長、吉本眞二アカデミー推進部アカデミー推進課長、阿部遼太郎アカデミー推進部観光・都市交流担当課長、矢部裕二アカデミー推進部スポーツ振興課長、猪岡君彦教育推進部真砂中央図書館長
資料	資料第1号 文京区アカデミー推進計画に関する実態調査の調査項目（案）について 資料第1－1号 調査項目（案） 資料第1－2号 調査票（案） 資料第2号 文京区アカデミー推進計画の点検・評価について 資料第2－1号 令和6年度文京区アカデミー推進計画の点検・評価（案） 資料第2－2号 令和6年度文京区アカデミー推進計画の点検・評価（別冊）（案） 資料第3号 意見等記入様式 参考資料1 文京区アカデミー推進協議会委員名簿 参考資料2 文京区アカデミー推進協議会分野別分科会名簿

### 1 開会

山田会長 文京区アカデミー推進協議会を始めさせていただきます。はじめに委員の出席状況及び配付資料等につきまして、事務局より説明をお願いいたします。

事務局 まず委員の出欠状況について、ご報告させていただきます。本日、欠席されているのは、学識経験者の荻野委員、団体委員の小能委員、山田委員、公募区民の小木委員でございます。欠席のご連絡をいただきてございます。

続きまして、本日の資料についてご説明させていただきます。前もってお送りさせていただいております。また、机上に置かせてもらっている資料もございます。まず資料として、次第が1枚と、資料第1号として「文京区アカデミー推進計画に関する実態調査の調査項目（案）について」、資料1－1号「調査項目（案）」、資料第1－2号「調査票（案）」、こちらについては、①から④までの4つございます。ここまでよろしいでしょうか。

資料第2号が「文京区アカデミー推進計画の点検評価について」、資料第2－1号「令和6年度文京区アカデミー推進計画の点検評価（案）」、資料第2－2号「令和6年度文京区アカデミー推進計画の点検評価別冊（案）」、資料第3号が、

文京区アカデミー推進協議会分野別分科会「意見等記入様式」、参考資料の第1号として、「文京区アカデミー推進協議会委員名簿」、参考資料の第2号として、「文京区アカデミー推進協議会分野別分科会名簿」、文京区アカデミー推進計画に関する実態調査報告書、前回行ったものの令和2年2月版がございます。

なお、申し訳ありません。事前配付資料のうち、資料第1－1号に一部修正がございましたので、差し替え資料として机の上に置かせていただいている。

また、皆様の席上には、計画の本編と概要版を閲覧用としてご用意させていただいております。席上への資料配付を希望された方には、閲覧用として実態調査報告書も置いてございます。ご説明させていただいた中で、過不足などありましたら、挙手をお願いします。よろしいでしょうか。後でお気づきがありましたら教えてください。説明は以上でございます。

## 2 議題

### （1）文京区アカデミー推進計画に関する実態調査の調査項目（案）について

山田会長 それでは議題に入ってまいります。次第に沿って進めてまいります。2の議題  
1 「文京区アカデミー推進計画に関する実態調査の調査項目（案）について」、  
事務局より説明をお願いいたします。

事務局 それでは説明させていただきます。まず、資料第1号「文京区アカデミー推進計画に関する実態調査の調査項目（案）について」をご覧ください。こちらについては、前回の協議会でも少し説明させていただきましたが、まず目的として、来年度、次期計画を策定するにあたり、文京区アカデミー推進計画で掲げております5分野について、区民の意識、活動状況等を把握するために実態調査を行うものでございます。調査対象者及び調査方法ですが、まず1つ目としては、区民向け調査を満18歳以上の2000名程度に無作為抽出で行います。2つ目は、今回から初めて行うのですが、若者向け調査として、小・中学生、高校生・大学生に向けて、調査票を配布し、それぞれネットで回答していただく予定にしています。3つ目には、アカデミー推進計画の事業に参加された方向けの調査で、アンケートを直接配布して、ネット回答等によって実施するものです。

次に調査項目ですが、まず資料第1－1号をご覧ください。この調査項目一覧の見方ですけれども、左端に調査項目がございます。真ん中上段に前回調査と今回調査と書いてあります。前回調査につきまして、前回の計画の前に行った調査で、令和元年9月から10月にかけて行っています。それと今回の調査の比較となっています。右端には質問の意図を示しています。

資料の見方ですけれども、数字が質問の番号になっています。たとえば、前回調査の8番で、今回調査は横棒になっていますが、今回は内容を踏まえて削除した質問になってございます。また、今回調査の10番、スポーツに関する項目の1つ目では、前回調査ではなかった質問を入れたというように見ていただければと思います。

今回調査の質問内容について、ご説明させていただきます。それでは資料第1－2号の調査票（案）（1）をご覧ください。前回、区民向けの調査は全68問でしたが、今回は54問となっています。

まず1ページ目の問1から、2ページ目の問9までは、回答者自身についての質問をさせていただいています。

2ページ目から「スポーツに関する項目について」としていますが、ここからが各分野の調査になります。各分野の最初の質問として「それぞれの分野に関心がありますか？」と関心の有無を聞いています。スポーツについては、スポーツ全般の実施されていることであるとか、観戦されているものについて聞いています。3ページになりますが、問17、ここでは「パラスポーツ、障害者スポーツ、インクルーシブルスポーツに関心がありますか？」という質問を掲げています。

その次のページから「文化芸術に関する項目について」の質問になります。こちらについても、最初の問19で「文化芸術活動に関心がありますか？」という質問をさせていただいています。6ページの問25で、障害者アートについての関心の有無を尋ねています。問29で区の施設の「ふるさと歴史館」「森鷗外記念館」の認知度の確認をさせていただいています。

7ページからは学習活動に関する項目になります。こちらについても、問30で学習活動に関する関心を聞いています。

9ページからが観光に関する項目になっています。問37で観光に関する関心を聞いています。

11ページからが国内・国際交流に関する項目になっています。こちらについても、問44で関心の有無を聞いています。また、46・47に関しては、国内交流事業への「参加経験と、今後参加したいと思っていますか？」という質問をしています。同様に12ページの問50と問51では国際交流事業への参加経験と今後参加したいかどうかを聞いています。区民向けの調査の最後のページになりますが、問54で掲げております5分野すべてについて、基本方針の重要度及び個人の満足度の評価を聞いています。区民向け調査については以上です。

次に資料第1－2号の調査票（案）（2）「小中学生向け調査票」をご覧ください。こちらについては、対象を小学校4年生から中学校3年生までを対象にしています。ここでは、日頃どんな活動をしているかというところと、日頃体験している内容、また、子どもならではの関心事を聞いています。問7でパラスポーツ、障害者スポーツ、インクルーシブルスポーツの関心の有無を聞いています。3ページの問10、こちらにも同様に障害者アートの関心の有無を聞いています。問11、問12で観光面として、子どもならではのおすすめの場所を聞いています。問14、問15につきましては、国際交流の観点から外国の子どもたちと遊んだ機会に焦点を当てて聞いています。

次に、第1－2号の調査票（案）（3）「高校生・大学生向け調査票」をご覧ください。こちらについては、高校生・大学生に文京区の特徴と思われるところであ

るとか、それぞれの分野の参加意向、そのためにどんな工夫が必要かを具体的に聞いています。高校生・大学生の調査票についての特徴としまして、アンケート的な選ぶものだけでなく、2ページの問7と、4ページの問10では、高校生・大学生世代からいろんなアイデアをいただけるよう自由回答欄を設けています。

資料1-2の調査票(案)(4)「事業参加者向けの調査票」になります。こちらについては、どんな事業に参加されたかを確認し、問6で、参加された事業の情報収集をどのようにされたかを確認しています。問7で、各分野の重要度・満足度を聞いています。

恐れ入りますが、資料1にお戻りいただけますでしょうか。資料1の4、調査時期になります。実態調査につきましては、本年、来月の9月から11月までを予定しています。実態調査に向けての今後のスケジュールですが、本日の協議会を経て、9月から11月に調査を行います。その後、分科会等を挟んで、来年の1月に協議会及び本部、2月の議会において調査結果の報告をする予定でございます。説明については以上です。

山田会長

ただ今、事務局から説明がありました議題1につきまして、何かご意見やご質問がありましたら、少し時間を取りますので自由にご発言ください。なお、ご発言の際は、まず挙手をしていただき、こちらから指名をした後にお名前を名乗った後に、ご発言をお願いいたします。何かございますでしょうか。

三浦委員

生涯学習支援者の会の三浦と申します。調査項目について回答者の負担をあまりかけないと、或いは回答として適正なものをより把握していくということで、だいぶ前回に比べると絞ったという点では非常にありがたいと思っています。本取組みの大事な点は、①新しいプレイヤーを増やすこと、②プレイヤーの持てる能力を地域や他者の為に活かすこと、との考え方から、区民調査項目一覧について2点質問します。1点目は、学習活動に関する項目の学習活動を行う人が増える為の重点的な取組み(前回調査、設問44)について、新問36に内容を寄せて修正した上で、設問削除とありますが、新設問36は、学習活動を促進することと、その学習内容を地域や他者の為に活かす取組みとと一緒にきいてるので、これは別々に分けて聞いた方がより明確になるのではないでしょうか。2点目は、5分野横断に関するこの5分野におけるボランティアの充実に必要な取組みについては、大学生調査の調査結果を活用することが考えられるため削除とありますが、年齢層の高い区民調査でも把握すべきではないでしょうか。よろしくお願いいいたします。

山田会長

それでは、事務局からお願いいいたします。

事務局

質問ありがとうございます。1点目の新しいプレイヤーのところとプレイヤーの持てる力のところですが、資料1の2項の①を見ていただくと、学習活動が7ページから始まりますが、関心を聞いた後に、問34で新しいプレイヤーを増やすためにどんなところに興味を持っているかという質問を「どんな分野が学びたいですか」と聞かせていただいて、その後の問35で、「持てる能力を」について

は、他人や地域のために活かしたこととはと、経験の有無を聞いています。その後に「活かすべき取組みは」というところで、そういう学習の経験をしたいところから他の人に伝える流れにして聞かせていただいている。

もう1点、ボランティアについては、例えばスポーツ推進委員の方とか、観光ガイドの方がいますので、問16でボランティア活動をしたかどうかを確認させていただいて、どれくらいの方が活動しているかを把握したいと考えています。

また、観光案内や区民ボランティアが活動されていますので、問42でこれらの活動をしてみたいか、興味があるかどうかを確認しています。「ボランティア活動に従事するためには」という質問であると、情報がない、そのような機会を増やす、などの答えになる可能性が高いので、現状と実際のボランティア活動で、2つの部門に絞って確認させていただいている。

山田会長

三浦委員

事務局

山田会長

垣内委員

三浦委員、いかがでしょうか。

ご説明はよくわかりましたので、項目としてはこれでやるとしても、いわゆる分析のときに今言ったような視点を忘れずによろしくお願いしたいと思います。

1-2(3)の大学生向けのアンケートの問8でスポーツボランティア事業を知っているかどうか、実際に参加してみたいかどうかを聞いています。特に大学生世代がスポーツボランティアで活動してくれるとかなりありがたい面もあるので、そういうことを確認しているところです。

追加説明もございましたけれども、よろしいでしょうか。それでは他にご意見ご質問等ございますでしょうか。

垣内です。お世話になります。先程いろいろとご説明を頂戴しました。ありがとうございました。基本的な方向として、新しい項目、特に政策課題に直結するような分析結果が出そうなものに絞られたということで、その方向性はすごく良いと思うのですけれども、私の専門の文化芸術に関する部分について、いくつかお尋ねしたいところがあります。

まず1点目は、文化芸術を鑑賞しなかった理由、これは他の分野も同じですが、なぜしなかったか聞くことを今回は省略するという方向性と理解しました。直近の国の調査などを見てみると、いろんな理由で、特にコロナの後ですね、なかなか戻ってこない、もっと言うと観賞する比率が、戻らないどころかちょっと下がり気味でありますし、関心を持たない方もいらっしゃるというようなところもありまして、全国調査で言うと半分以上が鑑賞していない状況があります。文京区の場合は、相当その比率は違うとは思うのですけれども、ここを確認しなくて良いのかなというところがひとつ疑問に思う点です。時間的・金銭的制約は政策で対応できないと書いてあるのですけれども、時間的制約というのは要するに身近なところに機会、チャンスがあるかどうか、機会、財やサービスが提供されているかということですので、施設であれば配置、活動であれば提供場所ということで、政策にまったく関係がないというふうには思い難いことがひとつ。金銭的制約につきましては、いろんな方がいろんなことをおっしゃっていますけれど

も、経済的に少しばらついてきていて、特に子育て世代で子どもの貧困というような課題も出てきている中、こういったものと、何が問題なのかを確認した上で、例えばどういった世代に料金的な優遇を与えるのかといったようなことは、かなり政策的に対応可能な部分かというふうに思うところがあります。

文化芸術の場合、かなり料金が高いものがあるということもありまして、この理由について、データとして取っておいても良いのではないかという感じがいたしますけれども、今回は全体的に一貫してそこは触れないということなのかどうか、その理由をお聞かせいただきたいというのが1点。

長くなって恐縮ですけれども、2点目は文化芸術分野への関心というのを聞いていただいているのですが、併せて障害者アートへの関心も聞いていただいている、2回、関心事項について聞いているので、どちらも聞かれて良い項目だと思うのですけれども、この聞き方はこれで良いのか、一括してもよいかとも思いました。

それから3点目は、文化芸術施設の認知状況、問29でお聞きになることはとても大事なことだと思うのですけれども、私たちが調査する場合、知っているか知っていないかだけじゃなくて、知っていても来ないという項目を聞くことがあります。通常だと認知度だけじゃなくて訪問度も取れるからです。つまり、全く知らない人、知っているが来ていない人、もちろん知っていて来ている人、来ているということは知っていると理解するというような聞き方もあるかなと思いました。以上、3点コメントさせていただきました。

事務局

ありがとうございます。まず1点目、全体的にやらなかつたしなかった、感知していなかつた点を外させていただいているのは、傾向が見えているところと、今後やりたいものとか、今後こういうものがあつたら良いというものは質問させていただいているので、ポジティブな質問として今後どんなことを、今あなたが見たのはどんなきっかけで来ていますかであるとか、今後やってみたい、鑑賞してみたいのは何ですかという、求めているものを聞く質問としています。

2点目の障害者アートについては、区アカデミー推進課として今年度、障害者アートを重点施策として取り組んでいます。障害者アートについて、文化芸術の一分野だと考えていますので、文化芸術の関心事をまず聞いて、その中でも障害者アートについてはどうかという聞き方で今は考えています。

3点目の認知度だけでなく、入場の有無ですけれども、来館者の人数についてはそれぞれの施設で把握できていますので、こういう質問になっているところでございます。

山田会長

垣内委員、いかがでしょうか。

垣内委員

ありがとうございました。ポジティブな質問ということなのですが、ある意味お金がない、或いは場所的な、地理的な制約がある方を除くような質問にならないかは少し心配ではあります。つまり、皆さん区民全員の税金を使っていろんな施策を打つときに、いろんな理由で行けないような人たちの理由を聞かなくて大丈夫かはちょっと疑問ではありますけれども、区の方針ということであればそれ

は了解しました。あと、訪問度って数だけではなかなか取れないところが実はあると思います。同じ方が何度も取るということなので、訪問者数というのは延べですし、真水の部分しかないので、よくあるのは知っている人、それから知っていて来ない人、そして来る人。来る人はリピートするかどうかってファネル分析ができますが、そこまで必要ないということであればこれで結構です。ありがとうございました。

事務局

今の委員のご意見を踏まえて、もう少しこの設問というか選択肢のところで工夫させていただければと思います。ありがとうございました。

山田会長

それ以外に何かご質問、どうぞ。

高橋委員

高橋でございます。小中学生の調査項目の 11 番に「あなたは文京区に遊びに来てくれた人に、区の楽しいところやおすすめの場所を紹介してあげたいですか」とありますね。自分が気に入っている場所というのはだいたい教えたくないものですね。教たい場所というのは、本人にとって、だいたい 2 番、3 番でしょ。だからこういう質問の前に「あなたが 1 人で行って、友達と行って本当に楽しかったところはどこですか?」という質問項目を置けば、パッと書くと思うのです。それが本当におすすめしたいところだから質問の仕方もこの前にひとつ「あなたが一番気に入って楽しかったところはどこですか」という質問を入れていただくと、大人の目線でなく子どもの目線での楽しいところが発見できるかなと私は感じたのですが、そのような質問を加えていただければありがたいと思います。

事務局

ありがとうございます。今回、高校生・大学生も含めて小中学生に聞くのは初めての試みなので、どういった意見が出るかは非常に楽しみですけれども、それぞれの年代ならではの意見が出てくると思います。委員がおっしゃっていた質問の 1 個上に、問 11 で「来てくれた人に紹介したいかしたくないか」と聞いていて、気に入っているからあまり見せたくないのか、ぜひ来てほしいのかという、いろんな取り方があると思いますので、それも含めて考えさせていただきます。

高橋委員

高校生・大学生の調査票の問 7 に、「あなたが文京区ならではと感じる魅力や、こんなものがあると気づいたことがあれば具体的にどのようなことか、自由にお答えください」というのがありますから、小学生、中学生でも、このような観点から聞くということは、私は大事だと思いますので、ご検討ください。お願いします。

山田会長

よろしいでしょうか。今年初めてやり始めた調査票の項目ですので、まだまだ工夫の余地はあるだろうと思います。そのへんも事務局に検討していただければと思います。他にご意見ご質問ございますでしょうか。どうぞ。

樋口委員

樋口です。小中学生の調査表のところですけれども、高校生とか大学生くらいになると、この調査はどういう目的でやっているのか見当がつくと思うのですけれども、小中学生だと、これが社会教育的なことなのか、学校で行われていることなのか、ごちゃごちゃになってくると思うのです。たとえば問 3 で「あなたが

この1年間に経験したことを教えてください」という問い合わせがあったとき、これが学校とか、あるいは部活動とか、そういうしたもので経験したものなのか、それとも地域の活動とか、区が主催するイベントとか、どっちのことなのか、小中学生にそれを問うのはかなり厳しいと思うのですが、大人としては文京区の企画が頭にあって、こういうワーディングをされたと思うのですけれども、そこらへんをうまく工夫をした設問にしていただくと絞れるのではないかと思うのです。おそらくこのまま出すと、自分はスポーツが得意だから9番に丸をつけるとか、そういう形になりそうなので、そこを「学校以外の活動についてお尋ねします」とかの形で設定していただくとさらに良いものになっていくと思います。問5では学校の授業以外でと書いてありますが、こちらはある程度は絞れてくるかなと思うのですけれども、そのあたり、特に問3のところは、3番とその次の5番との関係でどう設定されるか、難しいところだと思うので、ちょっとリファインいただければと思います。以上です。

事務局 今ご指摘があった、もう少し説明が必要なところについて加えさせていただきます。ありがとうございます。

山田会長 樋口委員、よろしいでしょうか。どうぞ。

脇委員 スポーツ関係団体の脇と申します。スポーツに関する項目のところですけれども、最初に区民に対する質問と、あと先程おっしゃっていた問5の小学生の選択するスポーツの種類がかなり違うのですね。小学生向けのものを高校に集約したからこういう形になっている気もするのですけれども、例えば高校を分析をしていく上で、大人と子どもが一緒にやっているのかとか、傾向として子どもたちはこういうものを、大人たちはこういうものを区内で取り組んでいるというような見方をするときに、この区分けだと後々の分析がしづらい印象を受けたのですが、それぞれ意図があって、こういうふうにされているのかなというのが1点。あと2点目で、大人の質問、問18のところに、12の外国人が取り組みやすくするというところで、スポーツの場合、海外からの観光客が文京区でスポーツをするよりも、在住の方が取り組みやすいことを念頭に置かれた質問なのかを確認したくて。もしそうであれば、もう少し住んでいる外国の方がアクセスしやすくするためにみたいな書き方のほうがよりはっきりする気がしました。以上です。

事務局 1点目のスポーツの種類の選択肢で、大人と合わせて、小学校向けを少し絞っているところについては、ご指摘の大人のところに入っているものについて精査させていただきます。

もう1点の外国人のところですけれども、住んでいる外国の方がどういう活動がやりやすいかというところは考えてございます。

山田会長 脇委員、よろしいでしょうか。他に何かこの議題1につきまして、どうぞ。

阿部委員 学習推進委員会の阿部と申します。よろしくお願ひいたします。

区民調査項目の一覧『学習活動に関する項目について』で、「学ばなかった理由」に関して、主な理由が「政策で対応すべき項目（時間的、金銭的制約等）で

はないことが想定できるため削除する」とあります。私は現在、学習推進委員長をしておりますが、アカデミア講座に関しては、時間的制約があり、夕方や夜間の講座が少なくなっています。働き方改革のせいか、土日の講座作りは推奨されておりません。平日の午前や午後の講座ですと、どうしても年齢層が決まってしまいます。そうすると社会人とかスキルアップを目指すような方には講座を受講して頂けません。区民プロデュース講座のコーディネートをする際も、少なくとも夕方に講座が開けないかという方が多いです。対象が40代、50代の方、或いは大学生も受講できるかが悩みどころです。そのへんはどのようにお考えかお聞きしたいと思います。それがまず1点目。それから2点目ですが、やはり学習活動に関する項目の中で、例えば問31「あなたがこの1年間で学んだ分野を教えてください」の5番目に医学・健康がございます。医学に関しては、私も講座を作ろうと思っていたのですが、生涯学習と医学は関連性がなかなか難しいということ、足踏み状態でございます。どのへんまで医学・健康講座に加味しているのでしょうか。そこをお尋ねしたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

事務局

まず1点目、ご指摘の学ばなかった理由で、今回はその質問を外させていただいているのですが、指定管理者とも話しながら、どんな話ができるかというのは今後いろいろと工夫する余地があると考えています。健康については、皆さんに興味や関心があると思いますので、取っ付きやすいところからという話になるのかなと思います。専門の方に教えていただくとなると、そういう方をご紹介できるかなど、難しいところもあるので、その前提を含めて考えていくのかなと思ってございます。

阿部委員

もう一言よろしいでしょうか。例えば一般向けですと、予防医学にはとても関心が高いのですが、一方で、予後のアフターケアについては情報提供の場がありません。この6月に厚労省から脳卒中になった患者の3割は社会復帰が出来ていないと発表されました。もちろん、これは予防の話では無いのですが、ガンに続いて、また高齢者も含めて、現代はこういう病気が問題となっています。病気を体験された方やその家族、或いは周りの方々にも知って頂きたいようなことを啓蒙する講座があっても良いのかなと思っております。予防とアフターケアは、同一線上の最初と最後にあるような気がします。そのあたりの取組みが分からないと、講座を作る際にどこに当てはめて良いか分かりません。開講時間の問題も絡んできます。平日が良いのか、平日の夕方なら良いのか、または土日の講座か等、先程の質問とも関連するので、質問させて頂きました。ありがとうございました。

山田会長

阿部委員、よろしいでしょうか。他にございますでしょうか。どうぞ。

相澤委員

相澤と申します。よろしくお願ひいたします。一生懸命作られていて、すごくいろいろ素晴らしいなと思ったのですが、小学生と中学生の質問が同じ紙になっているんですけども、小学生の4年生からになっていますが、この質問の言葉が難しい気がします。中学生なら良いけれども、例えば3ページ目ですね。1の2号、②の3ページ目のところ、「あなたが1年間に見て楽しんだことは何です

か」の「楽しんだ」が「楽しかった」と書くとすごくわかりやすいと思うのです。それから、例えば「文京区に遊びに来てくれた人に」なのですけれども、そのへんどう聞いたら良いか、考えてもよくわかりませんが、文京区に住んでいなくて文京区に来てくれとのかは、そういうお友達がいっぱいいるかどうかになってきて、それがおじいさんおばあちゃんになるのだろうかとか、そうするとちょっと、なんて書いたら良いのでしょうか。すみません、わからなくなってしまうのですが、4年生からというと、もうちょっとわかりやすい言葉にしてみるのが良いんじゃないかと思つたりしました。

事務局 小中学生向けの質問の内容については今後、校長先生の会議に説明してご意見をいただくこともありますので、表現のところでご意見がありましたら修正させていただきます。ありがとうございます。

山田会長 小中学生向け、それから高校生・大学生向けの調査票は、今回初めてこれらを作つて、これから毎回改良していく、その最初の取っ掛かりというふうにご理解いただけだとありがたいなと思います。

樋口委員 樋口です。小中学生向けのアンケート、それから高校・大学生向けのアンケートということで、今年から始めていることに関しては、難易度とか、言葉遣いとか、難しいところがあると思うのです。例えば小学校の4年生と5年生でも1年間でだいぶ違いますよね。高校生も1年間で違います。この手の書類をたとえば教室で子どもたちにやらせるときには、先生方にどういう指導をしてほしいか、質問があったらこう答えてほしいとか、ティーチャーズマニュアルみたいなものを一緒にアプローチできないとなんだかわからないうちに終わってしまうと思うのです。ぜひとも先生方にどういうふうなアプローチをしてほしいのか、そういうマニュアル的なものを一緒に添えていただいて実行すると良いリターンが来るのではないかと思います。先生によっては「書け」なんて言う人もいれば、ひとりひとりの困りごとにコミットしながらやる方もいらっしゃると思います。そのへんのアプローチの仕方を均質化しないと、学校の中の傾向というのは正しいものになってこないかなと思いますので、ぜひそこらへんを工夫していただくと良いのではないかと、よくわからないところで申し上げたのですが、以上です。

事務局 先程も申し上げましたように、近々、校長先生の会議にご説明に上がるので、そのときに少しお話させていただくのと、今回的小学校向けのアンケートについては、タブレットを使用するので、そこでの説明も丁寧にしたいと思います。

山田会長 議題1につきまして、いかがでしょうか。もしよろしければ、次の議題に移りたいと思います。それでは、基本的に実態調査の項目につきまして、皆様からいただいたご意見を踏まえつつ、基本的にこの資料を元に進めさせていただければと思います。よろしいでしょうか。

(異議なし)

では、議題1を終わります。

(2) 文京区アカデミー推進計画の点検・評価について

山田会長

それでは続きまして、議題2「文京区アカデミー推進計画の点検評価について」事務局より説明をお願いいたします。

事務局

それでは、推進計画の点検評価について、説明させていただきます。資料2の「アカデミー推進計画の点検評価について」をご覧ください。

まず概要ですが、前年度に実施した事業の点検評価ですので、今年度は昨年度、令和6年度の点検評価を行うものです。今年度につきましては、事業実績のほか、今ご説明申し上げました実態調査の速報値を参考にしながら評価するものとさせていただきます。

2番目の協議会の構成につきましては、本協議会の19人の委員の方々にお願いします。スケジュールにつきましては、本日の協議会、実態調査の後、11月にそれぞれ分科会によって点検評価をしていただきます。分科会の日程等の詳細につきましては、次の議題3で説明させていただきます。来年の1月の協議会、本部及び議会に点検評価の結果について、報告する予定です。

次に資料2-1号をご覧ください。こちらが、今年度行います令和6年度のアカデミー推進計画の点検評価の案となっております。

まず冊子のページで9ページをご覧ください。PDFの方は11ページと2ページずれますのでよろしくお願ひします。上段の(3)のところで「主要な事業の選定と指標、目標の設定について」説明しています。今後、点検評価を行っていくにあたり、それぞれの事業の中から主要な事業を選定しております。その主要な事業の選定方法ですけれども、まず1点目として、指標の設定と毎年度の目標実績を把握できる事業であること。2点目として、定量的目標を設定できる事業であること。3点目が、計画で掲げています基本方針・施策の実現に向けた重要性が高い事業であること。4点目が、計画の推進にあたって重視する3つの視点を目標として設定することが望ましいと考えています。5点目が、継続的に実績を評価できる事業であること。この5点でございます。

この5点を踏まえまして、事業の選定ですが、2ページをご覧ください。第1章を計画の体系としています。こちらに示していますのが、分野として学習活動の分野ですが、その右側に基本方針・施策と書いています。こちらについては、アカデミー推進計画でもすでに明記しているものです。その各施策の中から、主要事業に選定したのが、右端の欄にあるものでございます。同様に、次のページにつきましては、スポーツについて。その次のページにつきましては、文化芸術について。その次につきましては、観光について。その次につきましては、国内・国際交流についての体系図を示してございます。

それでは7ページをご覧ください。中段にあります図、アカデミー推進計画の評価フレームとしていますが、今申し上げた内容が、左から主要事業を選んでその実施結果を評価するという内容になっています。それにより施策の評価を行うものです。また、ここまでが毎年度行っている評価です。右端で色が変わっているところが計画の見直し時に行う評価です。今年度実態調査、来年度計画見直し

の予定ですので、今年度から来年度にかけては基本方針の評価、及び分野としての総合評価を行っていく予定です。具体的にどのように進めるかを説明させていただきます。学習活動を例に説明させていただきますと、まず 12 ページをご覧ください。主要事業一覧として、こちらが学習活動の主要事業となっています。右のほうにアカデミー推進計画で示しているもの、また総合戦略に含まれているもの、また重点施策としているものについては印をつけています。

13 ページから、学習活動の分野別基本方針の 1 つ目、「誰もがいつでもどこでも学べる環境づくり」についての評価になります。指標としては、1 年間に学習活動を行った人の割合、令和元年度の調査ではこれが 67.2% でした。今回行う実態調査で、この令和 7 年度の調査の数字が当てはまるようになります。それが、先程申し上げました速報値ということです。目標値は 70% で、現状どうなっているかで評価をしていただきます。その下が事務局で活動内容の状況の説明をしている文書です。これらを踏まえて、アカデミー推進協議会及び分科会で出された意見をまとめていただくというような作りになっています。

同様に次のページ、基本方針の 2 つ目、学び続けるための活動の支援、その次のページが、基本方針の 3 つ目、「学びの循環による地域づくり」となっています。それぞれの基本方針につきましては、主要事業を掲げていますので、16 ページ以降が主要事業の評価の内容になっています。

例えば 1 つ目が、基本方針 1 の中の 1 つ目の主要事業として、文京アカデミア講座のところがございます。こちらの目標と実績の人数と、令和 6 年度の成果、評価及び次年度に向けた取組みの内容を評価していくというような流れになるものです。同様に、その後にいくつか主要事業が並んでいまして、実際の分科会で行っていたいただく評価につきましては、基本方針ごとに、まず施策の内容、評価の内容と基本方針、まとめの内容について、事務局から説明し、それぞれ評価を順に行っていただくような流れになります。

他の分野、スポーツ分野については、36 ページ以降、文化芸術分野については 60 ページ以降、観光分野については 99 ページ以降、国内・国際交流分野については 117 ページ以降に、同様の形で示してございますので、ご確認いただければと思います。

次に、資料 2-2 号をご覧ください。こちらにつきましては、主要事業以外の事業も含めて全体の事業を示しており、その事業成果等の記載です。すべてで 385 事業となっていますが、複数の施策にまたがっているものがございますので、もう少し数は少なくなります。

点検評価につきましては、主要事業の中で評価させていただきますので、この調査結果については、参考程度にご覧いただければと考えてございます。

山田会長 ありがとうございました。事務局から説明がありました議題 2 につきまして、何かご意見やご質問がありましたら少し時間を取りますので自由にご発言いただければと思います。なお、ご発言の際は先程と同じように、まず挙手をしてい

ただきまして、こちらから指名させていただいた際にお名前を名乗っていただいて、ご発言をお願いできればと思います。それでは何かご質問ご意見等はございますでしょうか。

垣内委員

垣内です。お世話になります。文化の分野でお尋ねしたいことがございまして、それは客観的な指標ってなかなか取りにくいというのはよくわかるのですけれども、例えば、ページ数で言うと 70 ページですかね。3 の①の 2 の「文の京コミュニティコンサート」。これは何回やったということだけ書いてあるのですが、通常だと、どのくらい参加されたのか、場合によっては満足度がどのくらいかというようなデータが出てきてもいいかと思います。たぶん何か事業を実施する度にアンケートを取っていると思うので、データはあると思うのですね。他の分野、例えば生涯学習のほうで「文京お届け講座」なんかを拝見すると、実施講座数もありますけれども、何件の講座を実施して何人が受講したかというようなものも書かれているので、少しそのあたりのデータを拡充していただけないかという感じがあります。シビックコンサートについては、延べ人数とかが入っている。大変喜ばれていると聞いておりますので、満足度などのデータをもし取っていれば、そういうものも入れていただくと、より評価がしやすくなるかなと感じております。それ以外のところも、例えば 3 のイの楽器演奏指導、指導の回数、指導しているということですので、指導の回数で良いのかもしれないですけれども、例えば吹奏楽部に何人いるのかとか、参加されたのかとか、非常に良かったという定性的な評価をいただいているのですけれども、もし他に何か定量的なものがあれば、付け加えていただくとより踏み込んだ評価ができるかなと思いました。

大変かもしれませんけれども、もしデータがあるのであれば、入れていただけるとありがたいというところです。以上です。

事務局

ご指摘のあった回数だけでなく、人数であったり満足度であったりでございますが、いろんなイベントではアンケートを取っていると思いますので、お出しできるアンケート結果であるとか、人数であるとかは実際に分科会で、できる範囲でご紹介させていただきたいと考えてございます。よろしくお願ひします。

高橋委員

高橋でございます。私の資料では 119 ページの「分野別基本方針に対する事業を通じた達成状況」で、①「国内交流自治体との交流促進と相互発展」というのがありますて、そこに 3 つの項目について挙げられているのですね。そのまとめとして、「これらの取組を着実に進めることで、文京区及び国内交流自治体双方の魅力を発信すると共に、交流自治体との平時からの連携を強化し、有事の際に備えた関係性を構築するために、より自治体同士の関係を強固にしていきます」という表現がなされています。ところが、国内・国際交流に関する項目について、問 45 で「区は災害時の相互応援や地域の文化交流を目的に国内 15 の自治体と協定等を締結しています」と書かれています。このまとめに書かれている平時とは、平常とか平常時という意味であって、広辞苑では、事変とか戦争状態にないときのことを言うそうで、平時の反対の言葉は、戦時ということになるわけですね。

そうすると、この有事というのは、完全に戦時ということになるわけでしょう。突然こういう言葉を出して表現する意義がどこにあるか。私は「自治体との日常での連携を強化し、災害発生等の際に備えた関係性を構築するために、より自治体同士の関係を強固にしていきます」というようにまとめたほうが、達成状況の中での表現としてはよりふさわしいのではないかと思うのですが、どうしてこういう表現をされたのか、お聞きしたいと思います。

事務局

今回、事務局としての叩き台とさせていただいているので、ご意見を踏まえ、修正して最終的な形で分科会にかけることになると思います。日常からという表現に変えさせていただく予定にしたいと思います。

高橋委員

私の記憶ではコロナを契機にこういった表現が入ったと記憶をしております。ただ、私も言葉に関係した業務に就いているものですから、使う用語というのは非常に重要でして、内容をどう表現するかによって、人が受け取る感じは変わるものですから、ここは大事にしたほうがよろしいかと思って意見を言わせていただきました。よろしくお願ひいたします。

山田会長

他にご意見ございますでしょうか。

樋口委員

樋口です。先程この手の報告書を書くときに数量ですか、評価しやすい数ですね、そちらを書いたほうがよろしいということなのですが、ずっとすべて見たわけじゃないですけれども、すごく細かく書いてあるページと、そうじゃないところの差がかなりあるのではないかと思いますので、大変だとは思うのですけれども、思いを書いても仕方がないので、ぜひある程度のフォーマットの中で書かれたほうが後々利用しやすいかなと思いました。以上でございます。

山田会長

おそらく、個別的なことにつきましては、分科会の中で取り上げていくことになると思っております。他にご意見ございますでしょうか。ないようでしたら、これで議題2「文京区アカデミー推進計画の点検評価について」は資料のとおり進めていくということで、本議題を終わります。

### （3）分野別分科会について

山田会長

では議題3、分野別分科会について、事務局より説明をお願いいたします。

事務局

分野別分科会についてご説明いたします。参考資料の第2号、アカデミー推進計画分野別分科会名簿を参考にご覧いただけますでしょうか。まず学習活動ですけれども、座長として荻野委員にお願いいたします。メンバーとしては団体からは阿部委員、三浦委員、公募区民からは相澤委員、中島委員に入っていただきます。学習活動分野の分科会の日程ですが、11月25日の火曜日になります。時間が午後6時30分からでお願いいたします。よろしいでしょうか。

次に、スポーツ分野です。座長を青木副会長にお願いいたします。団体からは高木委員、脇委員にご参加いただいて、公募区民からは樋口委員と小木委員に入っています。よろしくお願ひします。スポーツ分野の開催日時ですけれども、こちらは11月17日の月曜日、午後6時30分からになります。

次のページ、文化芸術分野ですけれども、座長は垣内委員にお願いいたします。

団体からは高澤委員と牧野委員にお願いします。公募区民からは高橋委員、小木委員にお願いいたします。文化芸術分野の開催ですけれども、11月13日の木曜日、午後6時30分からになります。

次に観光分野ですけれども、座長を山田会長にお願いいたします。団体からは小能委員、関委員、公募区民からは中島委員、高橋委員にご参加いただきます。観光分野の開催ですけれども、11月21日の金曜日、午後6時30分からになります。

最後、国内・国際交流分野です。座長については山田会長にお願いいたします。団体からは佐伯委員、山田(健)委員にご参加いただきます。公募区民からは相澤委員、樋口委員にご参加いただきます。開催日程ですけれども、11月28日の金曜日、午後6時30分からになります。

なお、会場、場所ですけれども、これらの分科会はすべてこの場所ではなく、シビックセンター17階の福利健康会議室になりますのでご注意ください。前もって開催通知は再度送らせていただきますので、ご確認ください。

また、資料のほうでご説明差し上げました、意見等の記入様式がございます。こちらについては、今回それぞれ委員の方には特定の分科会にご参加いただきますが、参加される分科会以外の内容についてご意見がある場合には、この意見書に記入していただいて、FAX、メール、郵送等で10月31日までにいただけましたら、そちらの意見も使わせていただきますので、よろしくお願ひいたします。

今後の協議会と分野別分科会につきまして事務局から説明がありました。何かご質問等ございますでしょうか。

それでは、全体を通して何かご質問等はございますでしょうか。どうぞ。

お伺いしたいのですが、直接ここに関連するかわかりませんが、私は、観光の担当になっていて、実は私、文京区のコミュニティバス(ビーグル)に乗ったことがなかったものですから、夏休み中に3ルート全部乗ってみました。大変きめ細かいルートを回るということで、私は本当に感心いたしました。ルート中には、ジェットコースターに乗っているみたいな楽しいルートもありました。それで、ひとつお願いがあるのです。シビックセンターでコミュニティーバスに乗車する際には、玄関前の歩道で待っているのですね。そうすると、ルート別にだいたい20分に1本バスが出ることになります。その待っている間に、気分が悪くなつて倒れる利用者が出てきているのです。私が待っているときに、ご婦人がフラフラとなりましたので、庁舎の中に誘導して「待ちましょうね」と対応したのです。気がついてみたら、ビーグルの「乗り場はこちらです」という大きな誘導板とか、或いは今どこに先発のバスが来ており、あと何分で着くとか、或いは次発のバスがどこまで来ているかとか、そういう表示板は一切ないのです。それで私は、観光案内所に行って聞いてみたら、「ないので、困っているのです」と、けっこう聞かれるそうです。話は変わりますが、バスが区役所前に進んでくると、「シビックセンター前終点」と言われます。ところが、このビーグルというのは

循環バスですよね。ですから、乗務員に確認したところ、終点と言われても乗っていても良いそうです。その案内もないのです。終点だから降りようとした人がいて、「次まで行くのにどうしようかと話していたので、「乗っていていいのですよ」と説明したことがあるのです。そういう点、もう少しきめ細かな対応・対処を望みます。特にこの暑さが10月いっぱいまで続きますし、11月になったら一気に冬になると、また体の具合が悪くなつて、来年の4月になったらまた暑くなるということで、どんどん気候・環境が厳しくなるばかりですので、予算が必要かもしれません、そのところをなんとか、庁舎内だけでも良いですから、表示をつけていただいて、あと何分後にバスが来るかとか、或いは「ビーグルの乗り場はこちらですよ」という看板を出していただくとか、そういう工夫をひとつしていただけないでしょうか。確か区民課ですね。

事務局 ビーグルの所管は区民課になりますので、いただいた意見はお伝えさせていただきます。

高橋委員 一応書面にしてきましたので、後でお渡しします。よろしくお願ひします。

樋口委員 今、高橋委員の話を聞いていて思ったのですけれども、それこそアプリを設定してもらって、その中で情報が入るとすれば、結果的にはお金もあんまりかからずやれるのではないかなと思うのですが、そんなのどうですかね。良いのではないですか。

事務局 その意見もまとめて言っておきます。

山田会長 貴重なご意見、ありがとうございました。本日の議題は以上でございます。

(4) その他

山田会長 最後に事務局より、事務連絡をお願いいたします。

事務局 最後に4点ほど事務連絡がございます。まず1点目です。今後のスケジュールについてご説明いたします。次回の本協議会につきましては、来年の1月を予定してございます。具体的な日程が決まりましたらご連絡を差し上げますので、ご予定をよろしくお願ひいたします。2点目です。謝礼につきましては、会議ごとに指定の口座にお振り込みいたします。指定口座や住所に変更のある方は事務局までご連絡ください。3点目です。本日の議事録につきましては、後日メールでお送りしますので、ご確認をお願いいたします。修正点等ございましたら事務局までご連絡ください。最後4点目は、お手元にございます閲覧用のアカデミー推進計画の冊子、概要版及び実態調査報告書につきましては、恐れ入りますが机の上に置いたままでお願いいたします。また本日のお配りした資料でございますが、基本的にお持ち帰りいただいて構いませんが、不要な場合は机の上に置いたままで結構ですので、よろしくお願ひします。事務局からは以上です。

3 閉会

山田会長 ありがとうございました。長い時間お疲れ様でした。では、本日の会議を終了いたします。ありがとうございました。

